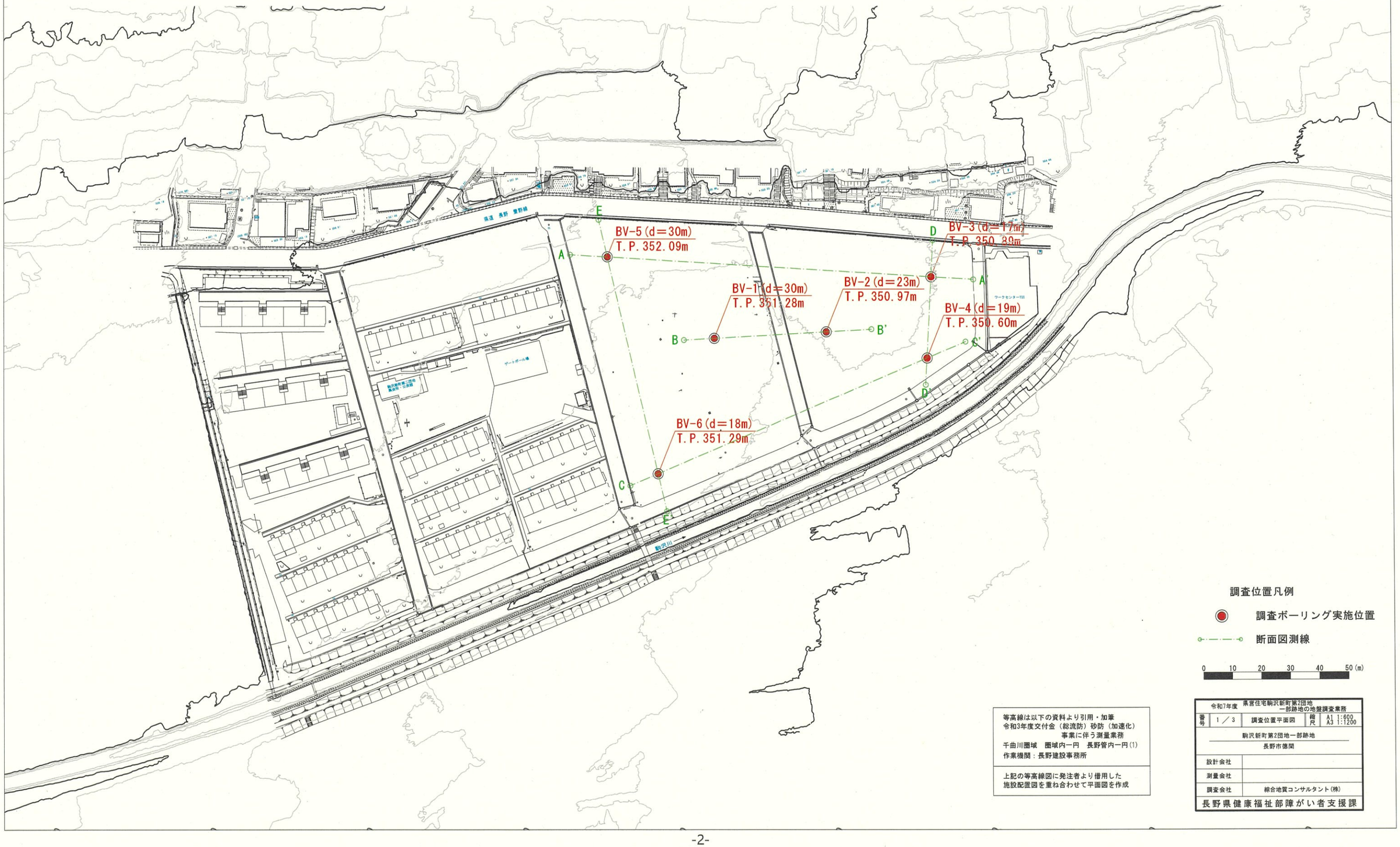
図1.1　調査位置平面図

調査位置平面図

S=1:600（A1版）
S=1:1,200（A3版）

長野市徳間



調査位置凡例

調査ボーリング実施位置

断面図測線

0　10　20　30　40　50（m）

等高線は以下の資料より引用・加筆
令和3年度交付金（総流防）砂防（加速化）
事業に伴う測量業務
千曲川圏域　圏域内一円　長野管内一円(1)
作業機関：長野建設事務所

上記の等高線図に発注者より借用した
施設配置図を重ね合わせて平面図を作成

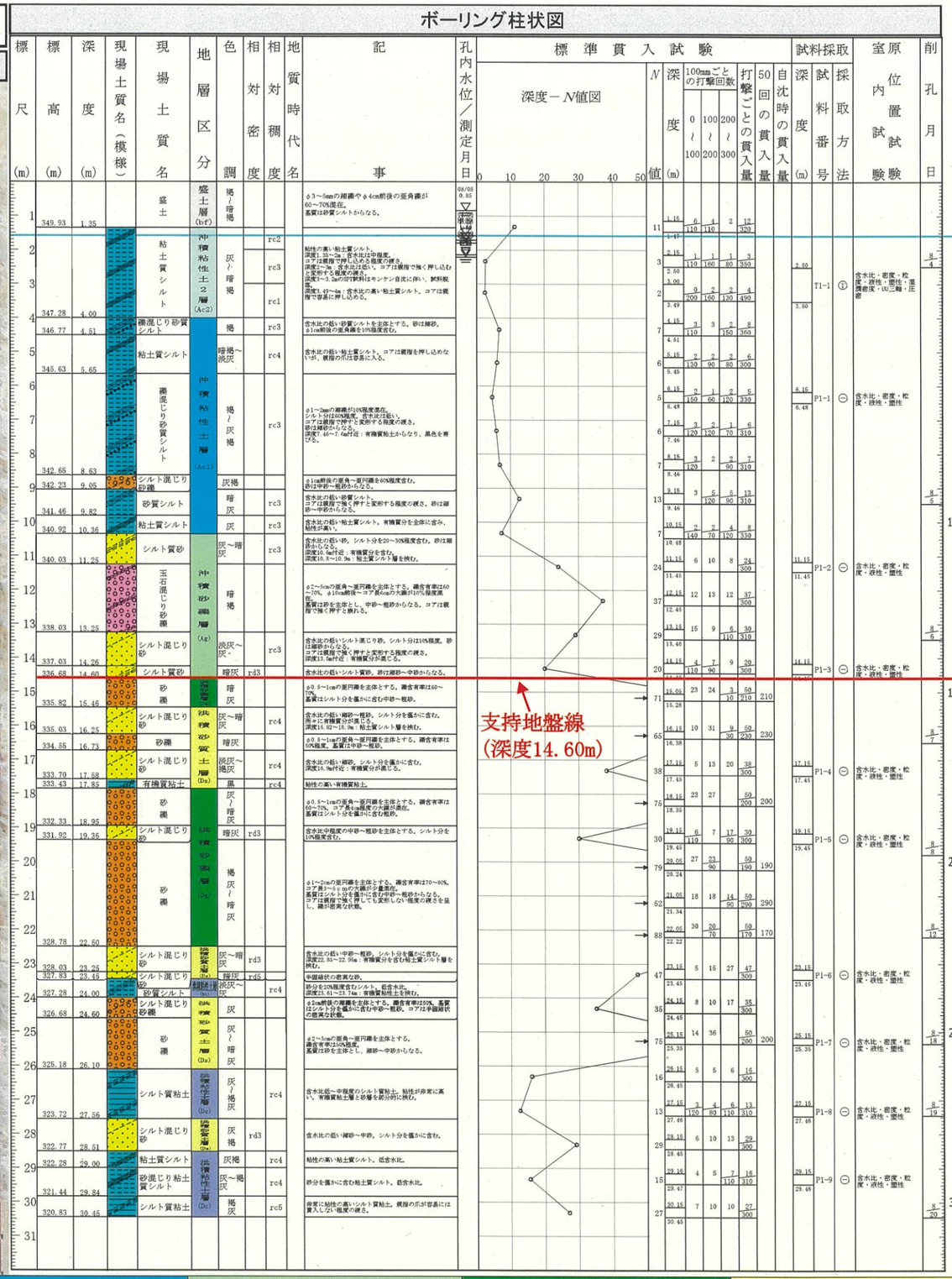
令和7年度	県営住宅駒沢新町第2団地一部跡地の地盤調査業務		
番号	1／3	調査位置平面図	縮尺	A1 1:600 A3 1:1200
駒沢新町第2団地一部跡地 長野市徳間			
設計会社			
測量会社			
調査会社	綜合地質コンサルタント(株)		
長野県健康福祉部障がい者支援課			

図3.2.1 ボーリング調査結果総括図(BV-1)

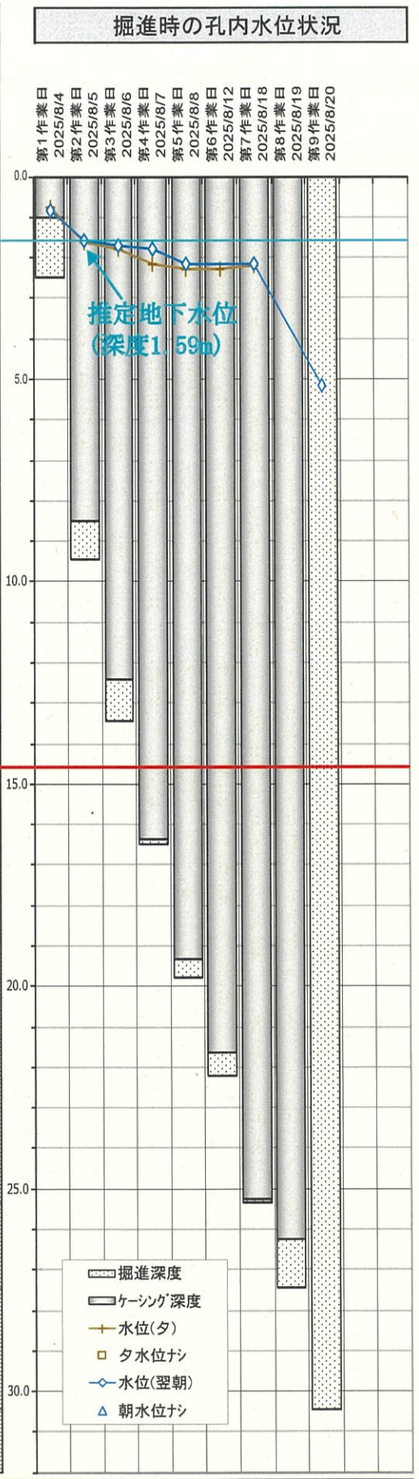
コア写真



ボーリング柱状図



掘進時の孔内水位状況



	深度0.00～1.35m：盛土層(bf)	深度1.35～4.00m：沖積粘性土2層(Ac2)	深度4.00～10.36m：沖積粘性土層(Ac1)	深度10.36～14.60m：沖積砂礫層(Ag)	深度14.60～22.50m：洪積砂礫層(Dg)	深度15.46～28.51m：洪積砂質土層(Ds)	深度23.45～30.45m：洪積粘性土層(Dc)
記事	・調査地表層に分布する表土であり、土地造成に伴う盛土である。 ・礫径3～5mmの細礫や礫径4cm前後の亜角礫が60～70%混在し、礫が比較的密に分布する。 ・基質は含水比の低い砂質シルトからなる。 ・実測N値は10/22(換算N値=14)であり、礫当たりによる結果を反映していると考えられる。	・土質は主に含水比の高い粘土質シルトからなり、部分的に有機質分を含む層を挟む。 ・色調は灰～暗褐色を帯びる。 ・実測N値は3/35～4/49(換算N値=2～3)であり、軟らかい状態にある。 ・また、深度3mから20cmはN=0/20(モンケン自沈)であり、深度3.49～4.00mは含水比が高く、コアは指圧で容易に変形出来ることから、非常に軟らかい状態にあると考えられる。	・土質は主に含水比の低い砂質シルトや粘土質シルトからなり、部分的に砂礫層を挟む。 ・色調は褐灰～灰色を帯びる。 ・実測N値は5/33～13/31(換算N値=5～13)であるが、概ね換算N値は6前後で、中位な状態にある。 ・コアは全体的に、強い指圧で変形する程度の硬さである。	・土質は主に含水比の低いシルト質砂と玉石混じり砂礫からなる。色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・シルト質砂：シルト分を20%前後含んだ細砂。実測N値は10～30であり、中位の状態にある。コアは強い指圧で変形する程度の硬さである。 ・玉石混じり砂礫：礫径2～5mmの亜角～亜円礫が50%、礫径10cm～コア長6cmの大礫が10%程度混在。実測N値は37であり、比較的締まりの良い状態。	・土質は主に砂礫からなり、部分的に砂質土層を挟む。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・礫は主に礫径1cm前後の亜角～亜円礫を主体とし、深度19m以深は礫径2～4cmの亜円礫を主体とする。礫含有率は70%程。礫が密実な状態。実測N値は50。 ・砂は主に粗砂～中砂からなる。	・土質は主に含水比の低いシルト混じり砂からなり、洪積砂礫層および洪積粘性土層と五層状をなす。 ・深度24～26m付近の砂礫は、上層と比較すると淘汰度が悪く、砂の含有率が高いため、コア採取状況も悪い(基質の砂が流されやすい)。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・砂は中砂～粗砂を主体とする。実測N値は29～50であり、中位～密な状態にある。	・土質は主に含水比の低いシルト質粘土と粘土質シルトからなり、洪積砂質土層と互層状をなす。 ・色調は灰～灰褐色を帯びる。 ・シルトと粘土の実測N値は13～27である。コアは全体的に粘性が非常に高く、爪の貫入も容易ではないことから、硬い～非常に硬い状態にある。

図3.2.2 ボーリング調査結果総括図(BV-2)

コア写真



標尺(m): 0~1, 1~2, 2~3, 3~4, 4~5, 5~6, 6~7, 7~8, 8~9, 9~10, 10~11, 11~12, 12~13, 13~14, 14~15, 15~16, 16~17, 17~18, 18~19, 19~20, 20~21, 21~22, 22~23, 23~24

ボーリング柱状図

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	現場土質名(模様)	現場土質名	地層区分	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事
0	350.17	0.80		盛土	盛土層(bf)	褐～黒				φ3～6cmの亜角礫や砕石が70%程度混在。基質は粗砂からなる。
1	349.37	1.60		礫質粘土	沖積粘性土2層(Ac2)	褐～暗褐		rc2		φ2cm前後の亜角礫を20%程度含む粘土。総含水比。コアは指圧で容易に変形する。
2	348.97	2.00		シルト混じり砂		灰褐	rd2			含水比の低い中砂～粗砂。シルト分を僅かに含む。
3	348.34	2.63		粘土質シルト		暗褐		rc3		含水比の低い粘土質シルト。粘性が高く、コアは強い指圧で変形する傾き。
4	347.62	3.35		シルト混じり砂		褐灰	rd2			含水比の低い中砂～粗砂。シルト分を僅かに含む。
5	347.12	3.85		粘土質シルト		暗灰		rc3		含水比の低い粘土質シルト。粘性が高く、コアは強い指圧で変形する傾き。 部分的に有機質分を含み、部分的に細礫を少量含む。
6	346.97	5.00		シルト混じり砂礫	沖積粘性土2層(Ac2)	暗灰				φ0.5～2cmの亜角～亜円礫を50%程度含む。基質は含水比低～中位の細砂～中砂。
7	346.17	5.80		砂質シルト	沖積粘性土1層(Ac1)	灰		rc3		含水比の低い砂質シルト。砂分を15%程度含む。
8	344.52	6.45		シルト質砂	沖積砂質土層(As)	灰～暗灰	rd3			含水比の低いシルト質砂。砂は細砂～中砂。シルト分を20%程度含む。 深度6.6m付近：6mm前後の亜角礫を多く含む。
9	342.97	8.00		シルト質粘土	沖積粘性土1層(Ac1)	黒		rc3		含水比の低いシルト質粘土。粘性が非常に高い。
10	342.47	8.50		シルト質砂	沖積砂質土層(As)	灰	rd3			含水比の低いシルト質砂。砂は細砂～中砂。シルト分を20%程度含む。
11	341.97	9.00		シルト質粘土	沖積粘性土1層(Ac1)	暗灰～黒		rc3		含水比の低いシルト質粘土。粘性が非常に高い。
12	341.32	9.65		シルト質砂	沖積砂質土層(As)	灰～暗灰	rd3			含水比の低いシルト質砂。砂は細砂～中砂。シルト分を30%程度含む。
13	339.62	11.35		シルト質粘土	(Ac1)	黒～暗灰		rc2		含水比の低いシルト質粘土。粘性が高く、有機質分を含む。
14	339.32	11.65		砂礫	沖積砂礫層(Ag)	暗灰				φ2～4cmの亜円礫を50～60%含む。φ9cm程度の硬質な大礫が少量混在。 基質は砂を主体とし、中砂～粗砂からなる。
15	336.82	14.15		シルト混じり砂	洪積砂礫層(Dg)	灰	rd3			シルト分を僅かに含む。細砂。
16	336.62	14.35		砂礫	洪積砂礫層(Dg)	暗灰				φ2～4cmの亜円礫を50～60%含む。コア長4cm程度の硬質な大礫が少量混在。 基質は砂を主体とし、中砂～粗砂からなる。 深度15.30m以深：砂は細砂を主体とする。
16	334.97	16.00		シルト混じり砂	洪積砂質土層(Ds)	灰～暗灰	rd4			含水比の低いシルト混じり砂。砂は細砂。シルト分を僅かに含む。 深度16.30m付近：有機質分を含む砂質シルト。
18	332.52	18.45		砂礫	洪積砂礫層(Dg)	灰～暗褐				φ2cm前後の亜円礫を主体とする。礫含有率は50%程度。φ8cmの硬質な大礫が少量混在。 所々に細礫を主体とする部分、細砂を主体とする部分を挟む。 基質は砂を主体とし、含水比は低い。 深度21.65～21.90m：含水比の低い細砂。コアは強い指圧でも崩れない硬さ。 深度23m以原：細砂～粗砂、細礫の割合が高い。 深度20mの試料は粗砂～細礫を主体とし、N値が低下。

孔内水位／測定月日: 08/29 1.00

標準貫入試験

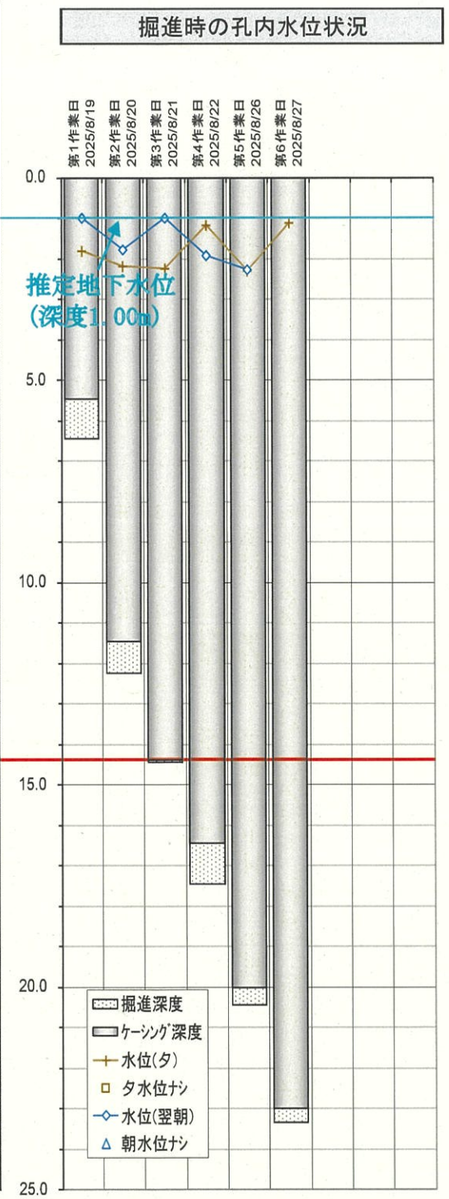
深度－N値図 (0 10 20 30 40 50)

N値	深度(m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
2	1.15	1	1	1	3		
	1.80	80	140	160	380		
1	1.53						
	2.15	4	3	2	9		
9	2.65				300		
4	3.15	1	1	2	4		
	3.48				330		
4	4.15	1	1	2	4		
	4.47				320		
11	6.15	4	3	4	11		
	6.45				300		
6	6.45	2	2	2	6		
	6.75				300		
12	7.15	4	4	4	12		
	7.45				300		
7	8.15	1	2	4	7		
	8.45				300		
8	9.15	1	3	4	8		
	9.45				300		
6	10.15	2	2	2	6		
	10.45				300		
13	11.15	2	2	9	13		
	11.48	130	70	110	310		
167	12.15	50				50	90
	12.24	90				90	
94	13.00	27	33		50		160
	13.16		60		160		
52	14.15	7	13	30	50		290
	14.44			90	290		
58	15.10	20	17	13	50		260
	15.36			60	260		
34	16.15	11	13	10	34		
	16.48				300		
29	17.15	8	12	9	29		
	17.45				300		
31	18.15	11	12	8	31		
	18.48				300		
77	19.15	19	32		51		196
	19.35				200		
34	20.15	9	12	13	34		
	20.45				300		
83	21.10	28	22		50		180
	21.28		80		180		
56	22.10	15	21	14	50		270
	22.37			70	270		
58	23.10	20	18	12	50		260
	23.36			60	260		

支持地盤線(深度14.35m)

試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	原位置試験 室内試験	削孔月日
3.00	T2-1	Ⓣ	含水比・密度・粒度・液性・塑性・湿潤密度・UU三軸・圧密	8/19
4.00				
				8/20
				8/21
				8/22
				8/26
				8/27

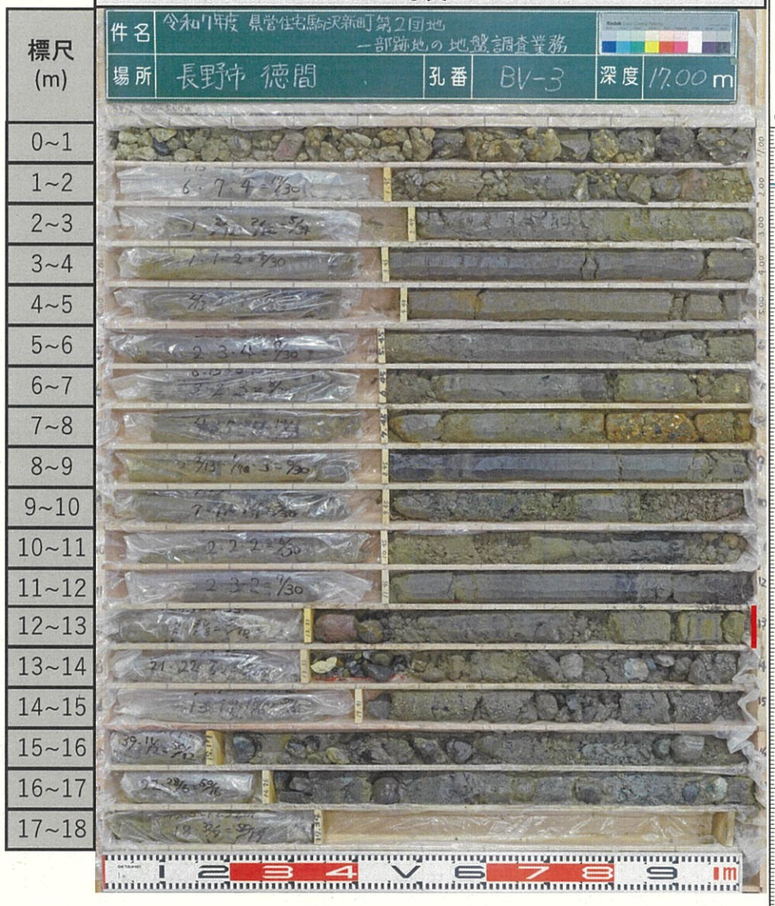
掘進時の孔内水位状況



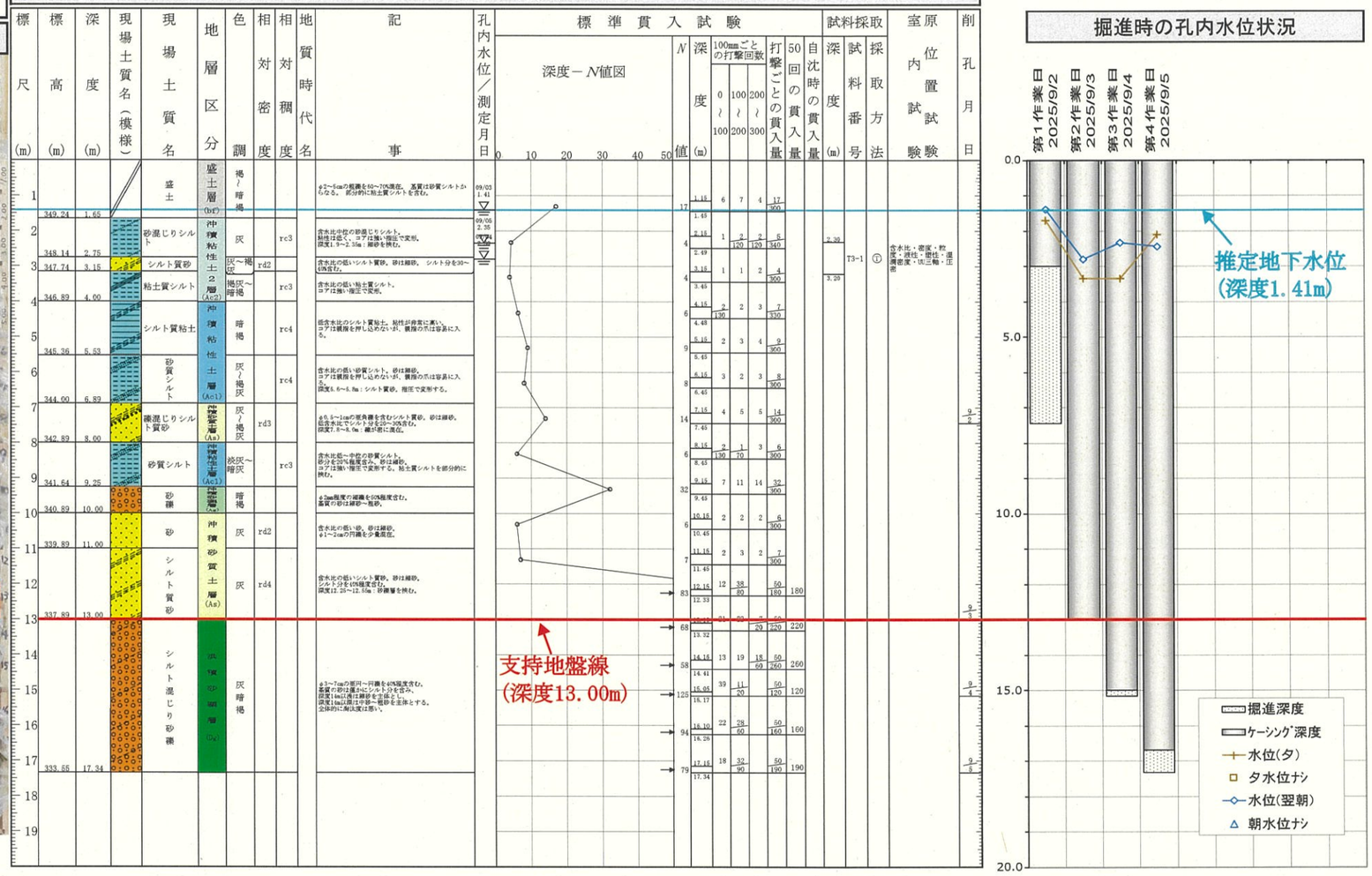
記事	深度0.00～0.80m：盛土層(bf)	深度0.80～5.00m：沖積粘性土2層(Ac2)	深度5.00～11.65m：沖積粘性土層(Ac1)	深度6.45～11.35m：沖積砂質土層(As)	深度11.65～14.35m：沖積砂礫層(Ag)	深度14.35～23.36m：洪積砂礫層(Dg)	深度16.00～18.45m：洪積砂質土層(Ds)
	・調査地表層に分布する表土であり、土地造成に伴う盛土である。 ・礫径3～6cmの亜角礫や砕石が70%程度混在し、礫が比較的密に分布する。 ・基質は粗砂からなる。	・土質は主に含水比の低い粘土質シルトからなり、部分的にシルト混じり砂を挟む。 ・色調は暗褐～暗灰色を帯びる。 ・粘性土の実測N値は3/38(換算N値=2)～4/32であり、非常に軟らかい～軟らかい状態にある。 ・コアは指圧～強い指圧で変形できる。 ・シルト混じり砂は、含水比が低く、中砂～粗砂からなる。 ・砂質土の実測N値は2/13(換算N値=5)～9/30であり、緩い状態にある。	・土質は主に含水比の低い粘性土からなり、部分的に砂礫とを挟む。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・上層の砂質シルトの実測N値は6であり、中位の状態にある。 コアは強い指圧で変形する。 ・下層のシルト質粘土の実測N値は7～8であり、中位の状態にある。 コアは非常に粘性が高く、指圧変形はやや困難な状態である。	・土質は主に含水比の低いシルト質砂からなり、沖積粘性土層と互層状をなす。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・砂は主に細砂～中砂からなる。 ・シルト分を20～30%含む。 ・実測N値は6/30～12/30であり、概ね緩い状態にある。	・土質は主に砂礫からなり、下端にシルト混じり砂を薄く挟む。色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・砂礫は、礫径2～4cmの亜円礫が50～60%混在し、礫径9cm程度の硬質な大礫が少量混在する。 基質は砂からなり、中砂～粗砂を主体とする。 実測N値は50であり、礫が密実な状態。 ・深度14.15～14.35mの貫入試料は砂が採取されており、実測N値は20/20(換算N値=30)であり、中位～密な状態にある。	・土質は主に砂礫からなる。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・礫は礫径2cm前後の亜円礫が50%程度混在し、礫径8cm～コア長4cm程度の硬質な大礫を少量混在する。 ・所々に細礫を主体とする層、細砂を主体とする層を挟む。 ・実測N値は50。	・土質は主に含水比の低いシルト混じり砂からなる。 ・洪積砂礫層の挟み層として分布する。 ・砂は含水比が低く、細砂からなる。 ・実測N値は29～34であり、中位～密な状態にある。

図3.2.3 ボーリング調査結果総括図(BV-3)

コア写真



ボーリング柱状図

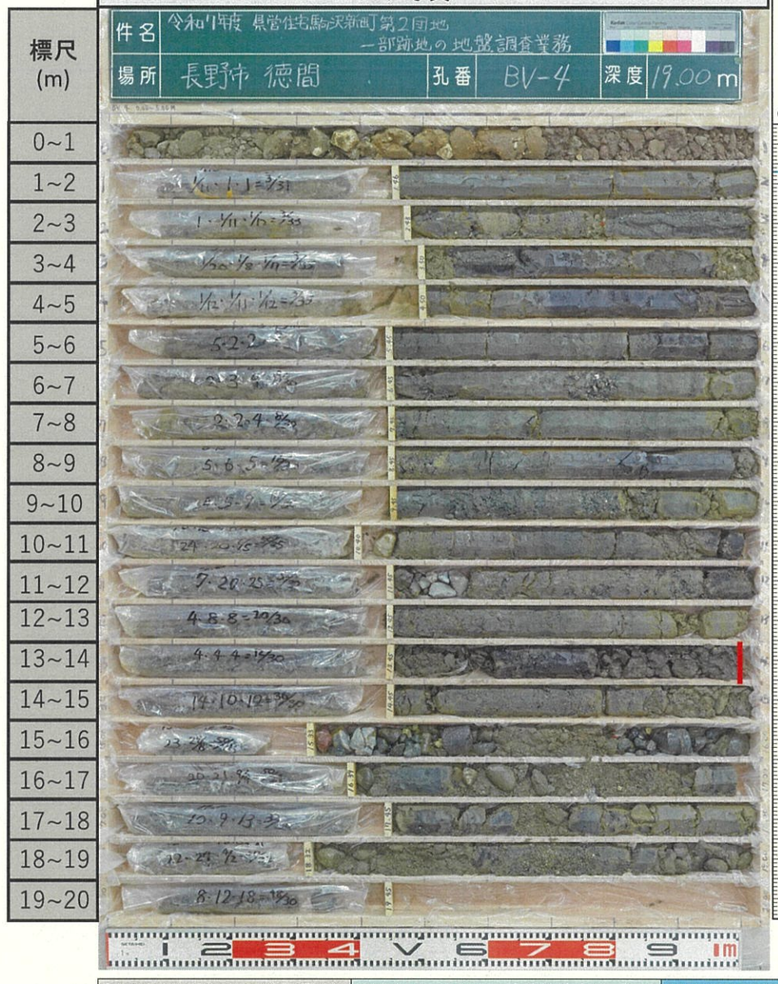


掘進時の孔内水位状況

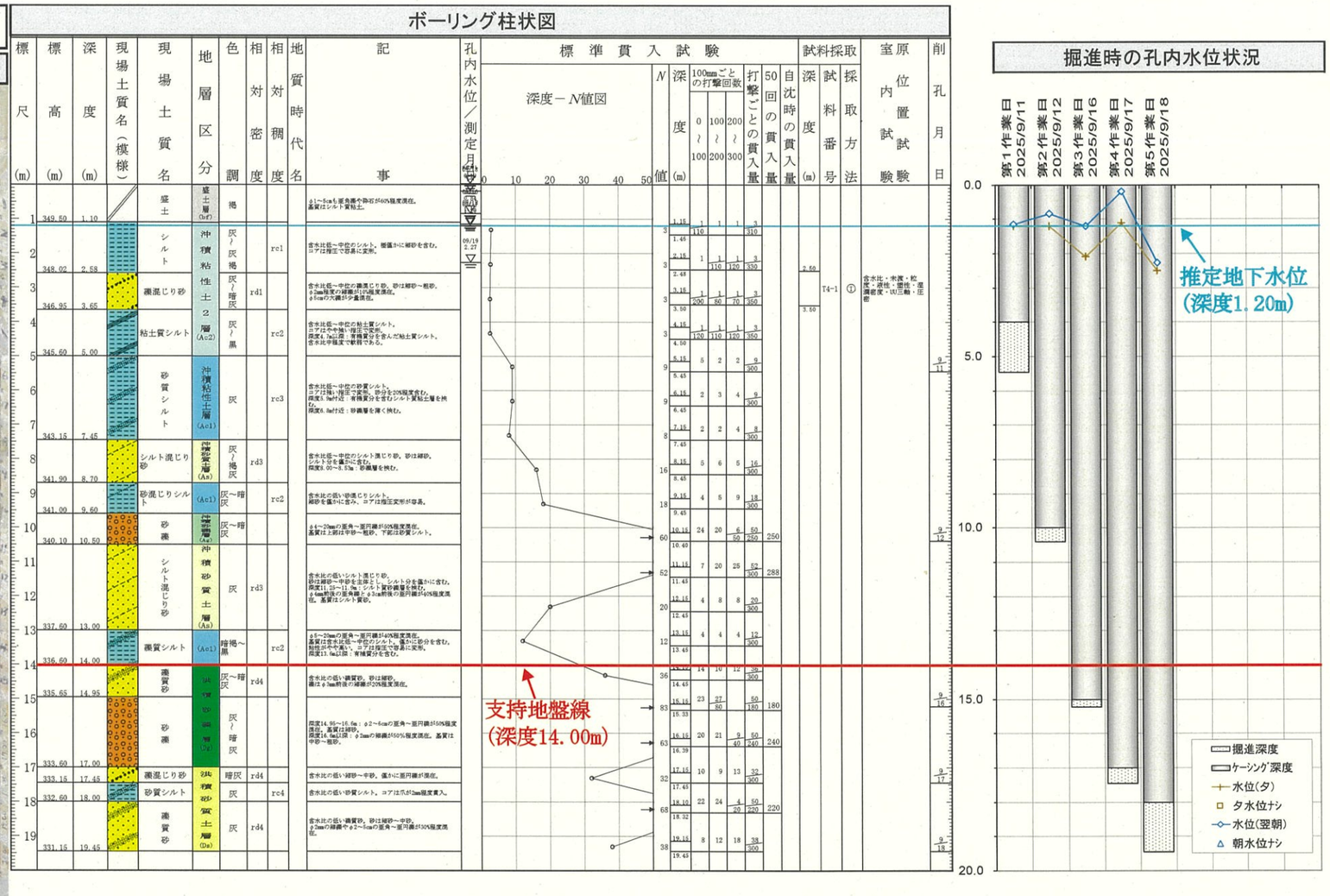
	深度0.00～1.65m：盛土層(bf)	深度1.65～4.00m：沖積粘性土2層(Ac2)	深度4.00～9.25m：沖積粘性土層(Ac1)	深度6.89～13.00m：沖積砂質土層(As)	深度9.25～10.00m：沖積砂礫層(Ag)	深度13.00～17.34m：洪積砂礫層(Dg)
記事	・調査地表層に分布する表土であり、土地造成に伴う盛土である。 ・礫径2～5cmの亜角礫や砕石が70%程度混在し、礫が比較的密に分布する。 ・基質は砂質シルトからなる。	・土質は主に含水比の低い砂混じりシルトと粘土質シルトからなり、シルト質砂を薄く挟む。 ・色調は灰～褐灰色を帯びる。 ・粘性土の実測N値は5/34～3/20(換算N値＝4)であり、概ね軟らかい状態にある。 ・コアは強い指圧で変形する。	・土質は主に含水比の低いシルト質粘土と砂質シルトからなる。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・実測N値は6～9であり、中位の状態にある。 ・シルト質粘土のコアは粘性が高い傾向にあり、指圧による変形は困難。 ・砂質シルトのコアは、強い指圧で変形する。	・土質は主に含水比の低いシルト質砂と砂からなり、砂礫を薄く挟む。 ・色調は灰～褐灰色を帯びる。 ・砂は、主に細砂からなる。 深度11mまでは礫径1～2cmの円礫が少量混在し、深度11m以深はシルト分を40%程度含む。 実測N値は6～7であり、緩い状態にある。	・土質は主に砂礫からなる。 ・色調は暗褐色を帯びる。 ・礫は、礫径2mm程度の細礫を50%程度混在し、基質は細砂～粗砂からなる。 実測N値は25/20(換算N値＝38)であり、比較的締まりの良い状態にあると考えられる。	・土質は主にシルト混じり砂礫からなる。 ・色調は灰～暗褐色を帯びる。 ・礫径3～7cmの亜円～円礫が40%程度混在する。 ・基質はシルト分を僅かに含んだ砂からなる。 ・深度14m以浅は細砂を主体とし、深度14m以深は中砂～粗砂を主体とする。 ・コア全体の実測N値は50であるが、概ね礫当たりによる結果を反映したものと考えられる。 ・全体的に淘汰度は悪い。

図3.2.4 ボーリング調査結果総括図(BV-4)

コア写真



ボーリング柱状図



掘進時の孔内水位状況

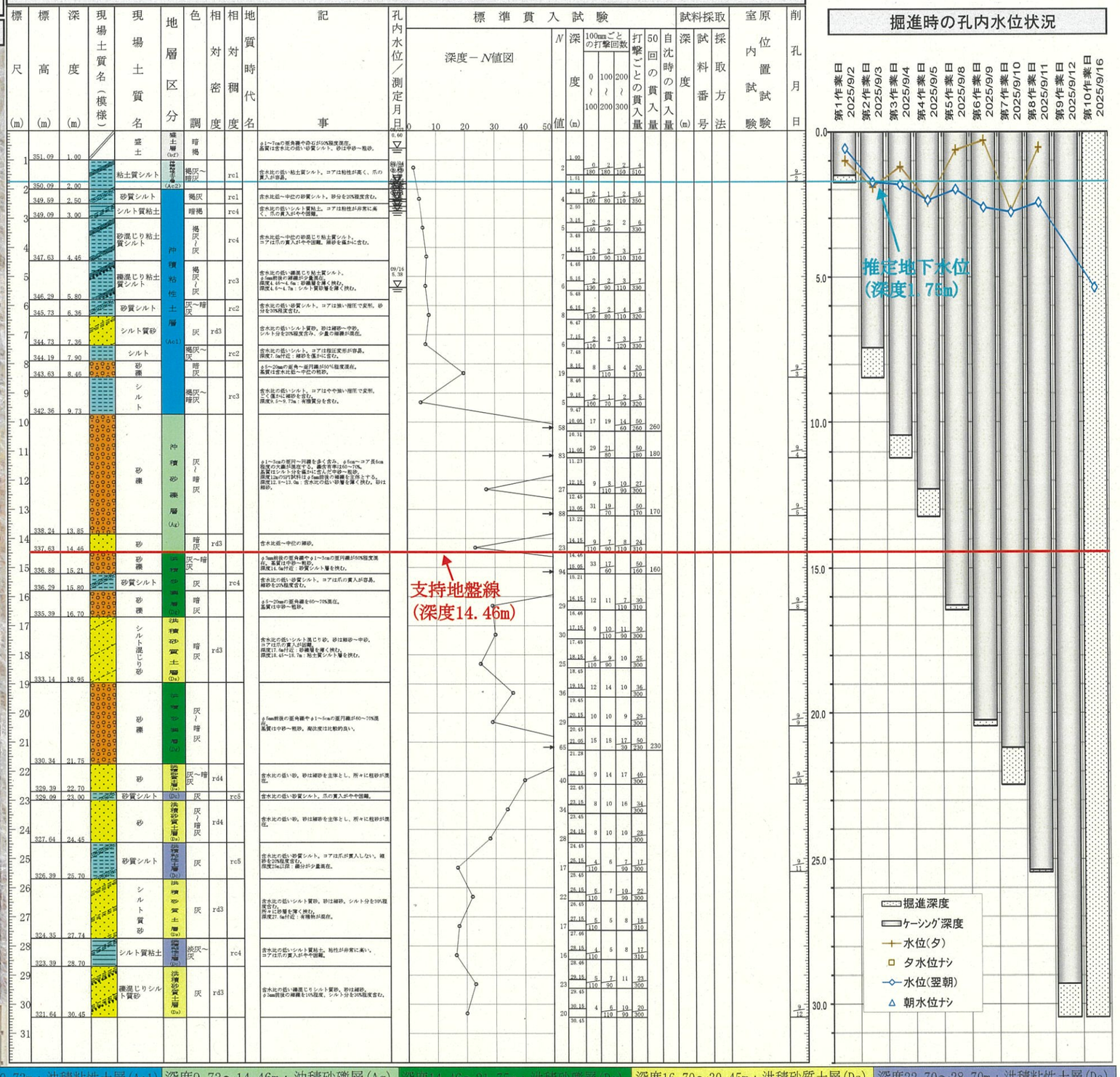
	深度0.00～1.10m：盛土層(bf)	深度1.10～5.00m：沖積粘性土2層(Ac2)	深度5.00～14.00m：沖積粘性土層(Ac1)	深度6.45～11.35m：沖積砂質土層(As)	深度9.60～10.50m：沖積砂礫層(Ag)	深度14.00～17.00m：洪積砂礫層(Dg)	深度17.00～19.45m：洪積砂質土層(Ds)
記事	・調査地表層に分布する表土であり、土地造成に伴う盛土である。 ・礫径1～5cmの亜角礫や砕石が60%程度混在し、礫が比較的密に分布する。 ・基質はシルト質粘土からなる。	・土質は主に含水比の低～中位のシルトと粘土質シルトからなり、礫混じり砂を挟む。 ・色調は灰～灰褐色を帯びる。 ・極めて僅かに細砂を含む。 ・粘性土の実測N値は3/35～3/31(換算N値＝3)であり、軟らかい状態にある。 ・コアは指圧で容易に変形できる。 ・礫混じり砂は、細砂～粗砂からなり、礫径2mm程度の細礫が10%程度混在する。 ・実測N値は3/35(換算N値＝3)であり、非常に緩い状態にある。	・土質は主に含水比の低～中位の砂質シルトや砂混じりシルトおよび礫質シルトからなる。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・実測N値は、8/30～18/30であり、概ね中位の状態にある。 ・深度7.45mまでのコアは、強い指圧で変形し、深度7.45m以深のコアは、指圧変形が容易。 ・深度13m以深の礫質シルトは、礫径5～20mmの亜角～亜円礫が40%程度混在する。	・土質は主に含水比の低いシルト混じり砂からなり、沖積粘性土層と互層状をなす。また、部分的に砂礫を挟む。 ・色調は灰～褐灰色を帯びる。 ・砂は主に細砂～中砂からなる。 ・シルト分を僅かに含む。 ・実測N値は16/30～7/10(換算N値＝21)であり、中位の状態にある。	・土質は主に砂礫からなる。 ・沖積粘性土層と沖積砂質土層の互層中に分布する。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・礫は礫径4～20mmの亜角～亜円礫が50%混在する。 ・基質は主に上部は中砂～粗砂からなり、下部は砂質シルトからなる。 ・実測N値は50。	・土質は主に礫質砂と砂礫からなる。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・礫質砂：含水比の低い細砂～中砂からなる。礫は主に、礫径3mm前後の細礫を20%程度含む。実測N値は36であり、比較的密な状態にある。 ・砂礫：礫径2～6cmの亜角～亜円礫が50%程度混在する。 ・基質は細砂からなる。 ・実測N値は50。	・土質は主に含水比の低い礫混じり砂と礫質砂からなり、砂質シルトを挟む。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・砂は細砂～中砂を主体とする。実測N値は32/30～50であり、中位～密な状態にある。 ・砂質シルトのコアは指圧変形は困難であり、親指の爪が2mm程度貫入する硬さ。

図3.2.5 ボーリング調査結果総括図(BV-5)

コア写真



ボーリング柱状図

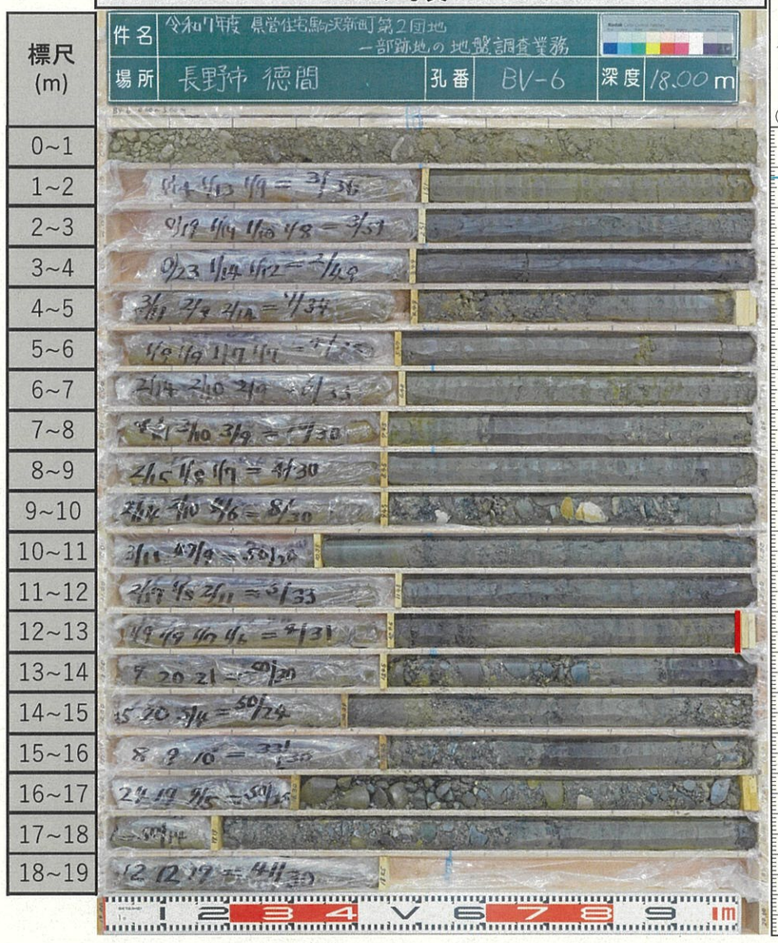


掘進時の孔内水位状況

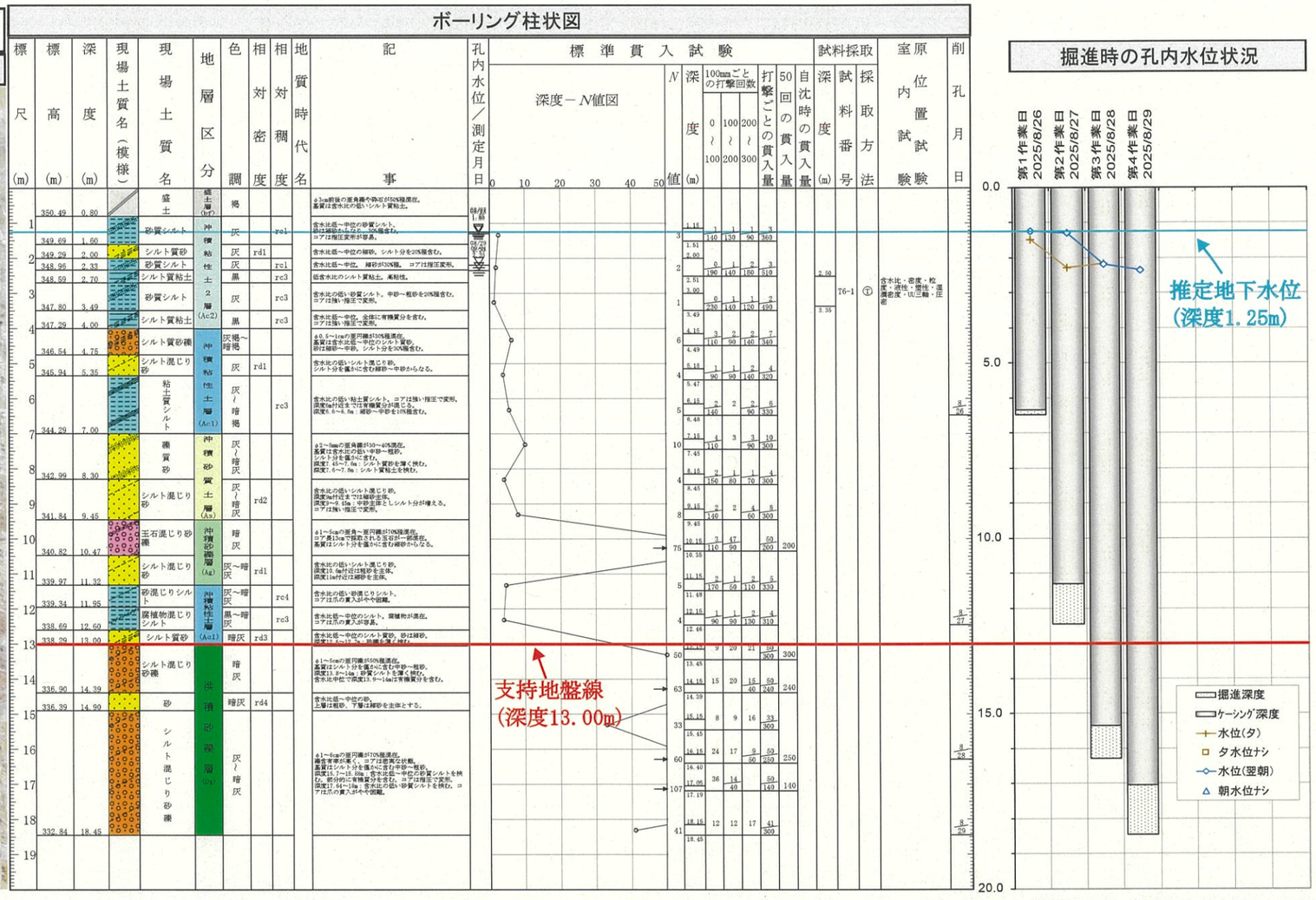
記事	深度0.00～1.00m：盛土層(bf)	深度1.00～2.00m：沖積粘性土2層(Ac2)	深度2.00～9.73m：沖積粘性土層(Ac1)	深度9.73～14.46m：沖積砂礫層(Ag)	深度14.46～21.75m：洪積砂礫層(Dg)	深度16.70～30.45m：洪積砂質土層(Ds)	深度22.70～28.70m：洪積粘性土層(Dc)
	・調査地表層に分布する表土であり、土地造成に伴う盛土である。 ・礫径1～7cmの亜角礫や砕石が50%程度混在する。 ・基質は含水比の低い砂質シルトからなる。 ・砂は中砂～粗砂を含む。	・土質は主に含水比の低い粘土質シルトからなる。 ・色調は褐灰～暗灰色を帯びる。 ・実測N値は、深度1mから18cmはN=0/18(モンケン自沈)であり、非常に軟らかい状態にあると考えられる。 ・また、深度1.18～1.51mはN=4/31であり、軟らかい　状態にある。 ・コアは粘性が高く、指圧変形はやや困難であるが、爪の貫入は容易である。	・土質は主に含水比の低い砂質シルトや粘土質シルトからなり、部分的にシルト質砂層や砂礫層を挟む。 ・色調は褐灰～灰色を帯びる。 ・粘性土と砂の実測N値は5～8であり、粘性土は中位な状態にあり、砂は緩い状態にある。 コアは全体的に、強い指圧で変形する程度の硬さである。 ・砂礫は礫径5～20mmの亜角～亜円礫が50%程度混在する。 基質は含水比低～中位の粗砂からなる。 実測N値は20であり、やや締まりは悪い状態にある。	・土質は砂礫と砂からなり、色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・砂礫：礫径1～3cmの亜円～円礫が50%程度、 礫径5cm～コア長6cm程度の大礫が10%程度混在する。 基質はシルト分を僅かに含んだ中砂～粗砂からなる。 実測N値は27～50であり、礫が比較的密実な状態にある事を考慮し、礫当たりの影響を反映している可能性が高いと考えられる。 ・砂：含水比低～中位の細砂からなる。 実測N値は24であり、中位な状態にある。	・土質は主に砂礫からなり、洪積砂質土層と互層状をなす。部分的に砂質シルトを挟む。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・礫は礫径3～5mmの亜角礫や礫径1～5cmの亜円礫を主体とする層と、礫径5～20mmの亜角礫を主体とする層が分布する。礫含有率は60%前後である。 実測N値は29～50であり、コアは比較的淘汰度が良く、10cm毎のN値のバラツキが小さい点を考慮し、比較的締まりの良い状態にあると考えられる。	・土質は主に含水比の低いシルト混じり砂とシルト質砂と砂からなり、洪積砂礫層および洪積粘性土層と互層状をなす。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・砂は細砂を主体とする。 実測N値は18/31～40/30であり、中位～密な状態にある。 ・コアはカッターの刃の貫入にやや抵抗を感じる程度の硬さである。	・土質は主に含水比の低い砂質シルトとシルト質粘土からなる。 ・洪積砂質土層と互層状をなす。 ・色調は灰色を帯びる。 ・実測N値は17であり、非常に硬い状態にある。 ・コアは非常に粘性が高く、爪の貫入が容易ではないため、硬い状態にあると考えられる。

図3.2.6 ボーリング調査結果総括図(BV-6)

コア写真



ボーリング柱状図



掘進時の孔内水位状況

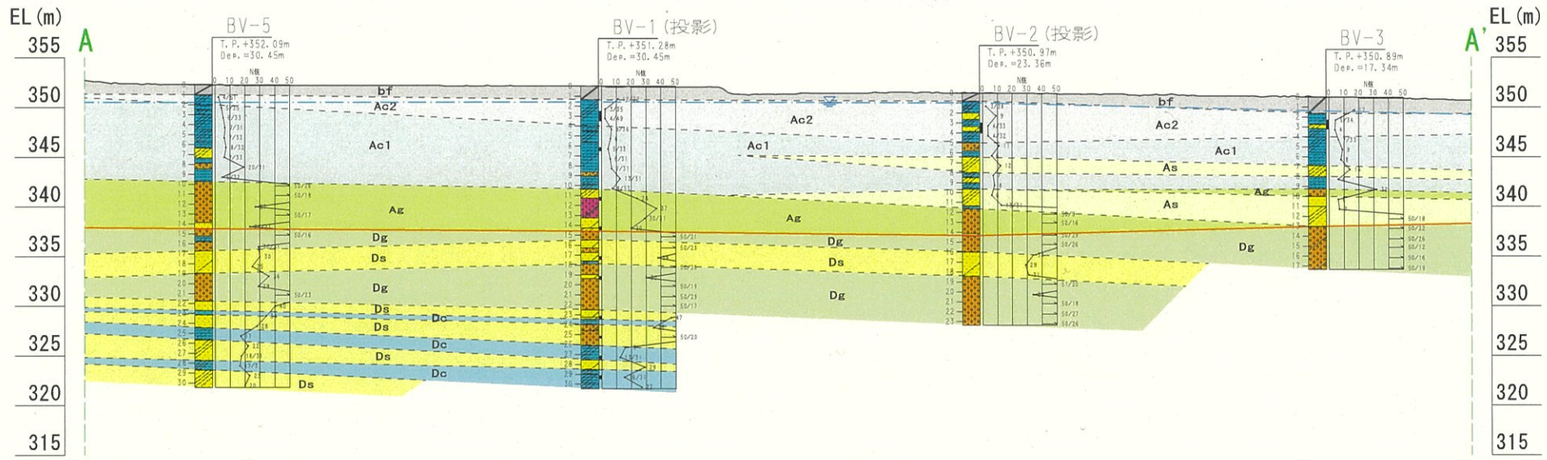
	深度0.00～0.80m：盛土層(bf)	深度0.80～4.00m：沖積粘性土2層(Ac2)	深度4.00～13.00m：沖積粘性土層(Ac1)	深度7.00～9.45m：沖積砂質土層(As)	深度9.45～11.32m：沖積砂礫層(Ag)	深度13.00～18.45m：洪積砂礫層(Dg)
記事	・調査地表層に分布する表土であり、土地造成に伴う盛土である。 ・礫径3cm前後の亜角礫や砕石が50%程度混在する。 ・基質はシルト質粘土からなる。	・土質は主に含水比の低～中位の砂質シルトとシルト質粘土からなり、部分的にシルト質砂を挟む。 ・色調は灰～黒色を帯びる。 ・粘性土の実測N値は3/51～3/36(換算N値＝2～3)であり、非常に軟らかい～軟らかい状態にある。 深度2.00～2.19mおよび3.00～3.23mはN＝0(モンケン自沈)であり、非常に軟弱な層が部分的に認められる。 ただし、シルト質粘土は粘性が非常に高いため、コアは強い指圧により変形する程度の硬さである。 ・砂は標準貫入試験を実施していないが、指圧で容易に貫入出来ることから、緩い状態にあると考えられる。	・土質はシルト質砂礫とシルト混じり砂と粘土質シルトからなり、色調は灰～暗褐色を帯びる。 ・シルト質砂礫：礫径0.5～1cmの亜円礫が30%程度混在する。基質は含水比低～中位のシルト質砂からなる。砂は細砂～中砂、シルト分を30%程度含む。 実測N値は7/34(換算N値＝6)であり、コアは指圧で容易に崩れることから、緩い状態にあると考えられる。 ・シルト混じり砂：含水比は低く、シルト分を僅かに含んだ細砂～中砂からなる。 実測N値は2/18(換算N値＝3)であり、非常に緩い状態にある。 ・粘土質シルト：含水比は低く、コアは強い指圧で変形。 実測N値は2/14～6/33(換算N値＝4～6)であり、中位の状態。	・土質は主に含水比の低い礫質砂とシルト混じり砂からなる。 ・深度7.0～8.3mは礫径2～5mmの亜角礫が40%程度混在し、基質はシルト混じりの中砂～粗砂からなる。 ・礫質砂の実測N値は2/15～10(換算N値＝4～10)であり、緩い状態にある。 ・シルト混じり砂：含水比が低く、僅かにシルト分を含む。砂は、深度9m付近までは細砂を主体とし、深度9m以深は中砂を主体とし、シルト分が増える。 ・実測N値は8であり、緩い状態にある。	・土質は玉石混じり砂礫とシルト混じり砂からなる。 ・色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・玉石混じり砂礫：深度9.45～10.47mは礫径1～5cmの亜角～亜円礫が70%程度混在し、コア長13cmで採取される玉石が少量混在。 基質はシルト混じりの細砂からなる。 実測N値は50であるが、礫当たり反発。 ・シルト混じり砂：含水比が低く、僅かにシルト分を含む。砂は、深度10.6m付近は粗砂を主体とし、深度11m付近は細砂を主体とする。 実測N値は3/22(換算N値＝4)であり、非常に緩い～緩い状態にある。	・土質は主にシルト混じり砂礫からなり、部分的に砂を挟む。色調は灰～暗灰色を帯びる。 ・礫径1～6cmの亜円礫が50～70%混在する。深度15m以深は礫含有率が高く、淘汰度は比較的良い。基質はシルト分を僅かに含んだ中砂～粗砂。部分的に砂質シルトを薄く挟む。 実測N値は33～50であり、比較的締まりの良い状態にあると考えられる。 ・深度14.39～14.90mは砂を挟む。含水比は低～中位であり、上層は粗砂、下層は細砂を主体とする。本層は標準貫入試験を実施していないが、コアはカッターの刃が容易に貫入する程度の硬さである。

図4.1.1　推定地質断面図
（A～C測線）

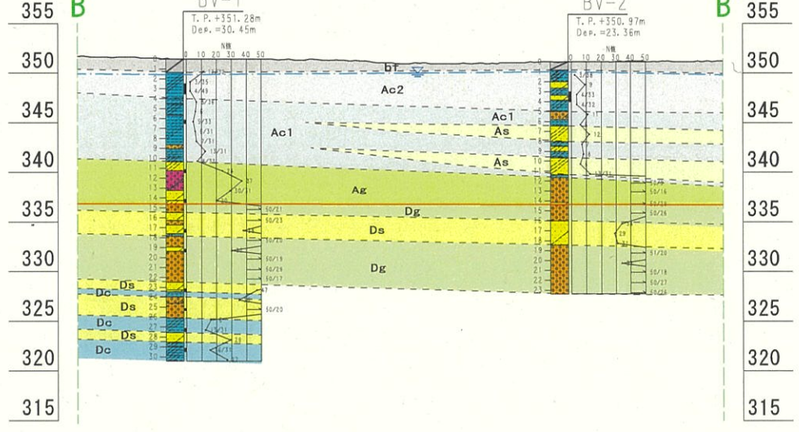
推定地質断面図

S=1:300　（A1版）
S=1:600　（A3版）

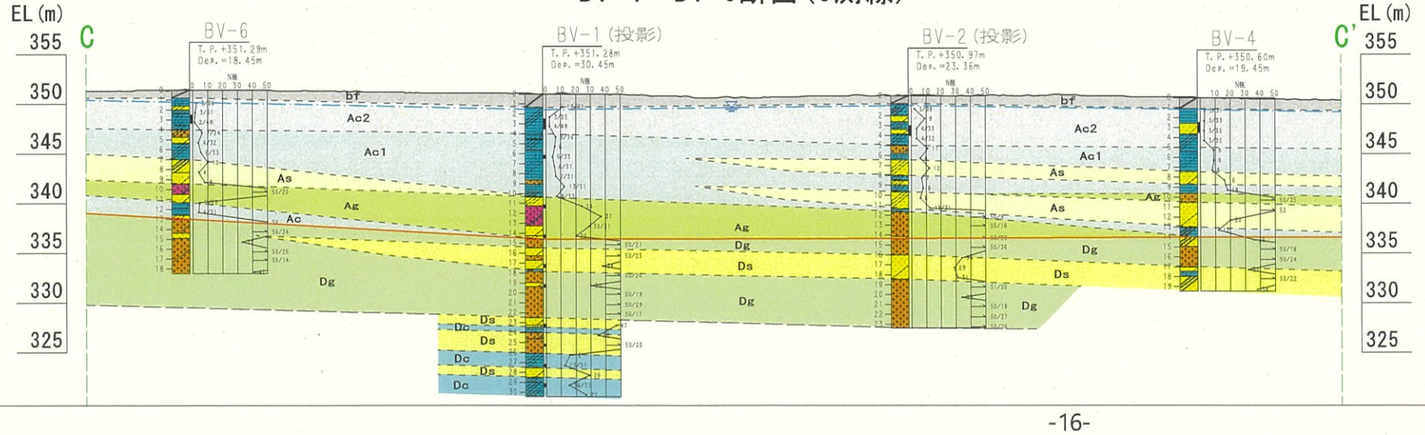
BV-3～BV-5断面（A測線）



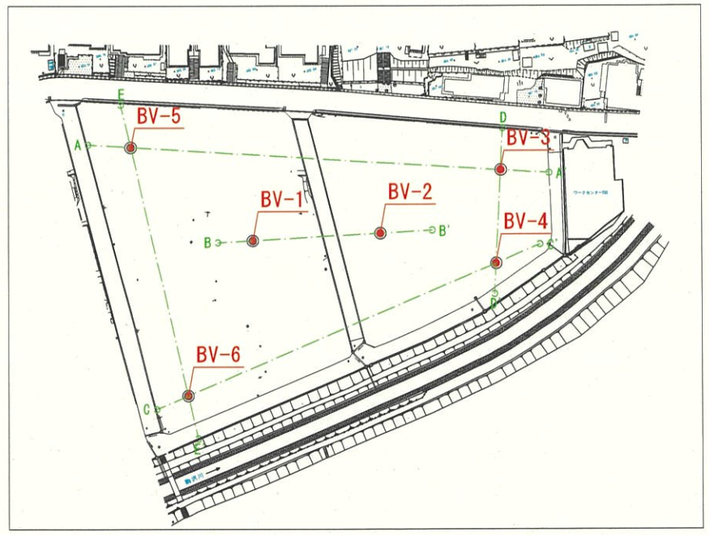
BV-1～BV-2断面（B測線）



BV-4～BV-6断面（C測線）



調査位置概要図



地層区分凡例

時代	地層区分	記号	土質	設計N値	記事
新生代第四紀 完新世	盛土層	bf	粘土質礫(砕石含む)	[14]	駒沢新町第2団地建設および現駐車場造成に伴う盛土や埋め戻し土。地表から1m前後の厚さで分布する。土質は砕石を含む粘土質礫を主体に構成される。礫径4cm前後の砕石を60%前後含んでおり、礫が密に分布する。基質は礫混り砂質シルトからなる。
	沖積粘性土2層	Ac2	シルト混じり砂・シルト質砂 砂混じりシルト・シルト・砂質シルト シルト質粘土・粘土質シルト	2	盛土層直下に分布する厚さ3～4mの軟弱な粘性土。土質は場所や深度によって異なり不均質ではあるが、シルト質粘土や粘土質シルト等の粘性土を主体に構成される。標準貫入試験では、一部でモンケン自沈が確認された。硬さの状態は「非常に柔らかい」～「軟らかい」である。
	沖積粘性土層	Ac1	シルト質砂・シルト・砂質シルト 礫混じり砂質シルト・砂混じりシルト シルト混じり砂礫・粘土質シルト・シルト質粘土	6	Ac2層の下位に厚さ6m前後で厚く堆積する粘性土を本層とする。土質は砂礫や砂質土を薄く挟んだり、場所や深度によって異なり不均質ではあるが、全体としては、砂質シルトや礫混じり砂質シルトを主体に構成される。また、場所によってはAs1層と互層状をなしている。硬さの状態は「中位」である。
	沖積砂質土層	As	砂・礫混じりシルト質砂・礫質砂 シルト混じり砂・シルト質砂	7	Ac1層中またはAc1層の下位に分布する砂質土を本層とする。土質は場所や深度によってやや異なるが、全体としてはシルト混じり砂やシルト質砂を主体に構成される。砂は主に中砂～粗砂からなる。締まりの状態は「緩い」である。
	沖積砂礫層	Ag	砂・シルト混じり砂・シルト質砂 砂礫・玉石混じり砂礫	27	調査地の西側（BV3,4を除く）において、基盤の直上に厚さ4m程度で堆積する旧河床砂礫。土質は、場所や深度によって砂質土を挟むが、全体としては砂礫を主体に構成される。礫は礫径3cm前後の亜円礫が主体をなし、最大礫径はコア長13cm（推定礫径約40cm）である。締まりの状態は「中位」である。
	洪積砂礫層	Dg	砂・シルト混じり砂・礫質砂・砂質シルト 砂礫・シルト混じり砂礫	44	調査地全体で確認された、旧河床砂礫。BV-3,6では連続的に確認されたが、他の調査孔ではDs1層を挟む。礫径はバラツキが大きく、1～6cmの亜円礫が主体をなし、最大礫形は8cm程度である。BV1,5,6の締固度は比較的良く、BV2,3,4の締固度は悪い。締まりの状態は「密な」状態である。
	洪積砂質土層	Ds	砂・シルト混じり砂・シルト質砂 礫混じり砂・礫質砂	25	Dg1層中またはDg1層の下位でDc1層と互層状をなす砂質土を本層とする。層厚は1～2mであり、連続性は乏しい。土質は場所や深度によってやや異なるが、全体としては砂やシルト混じり砂を主体に構成される。砂は主に細砂からなる。締まりの状態は「中位、である。
	洪積粘性土層	Dc	砂質シルト・砂混じり粘土質シルト 粘土質シルト・シルト質粘土	14	BV-1,5の最深部で確認された粘性土を本層とする。Dc1層と互層状をなす。層厚は0.5～2mである。土質は場所や深度によって異なり不均質ではあるが、全体としては、粘土質シルトやシルト質粘土を主体に構成される。硬さの状態は「硬い、である。

凡例

- 地層境界
- 支持地盤
- 地下水位

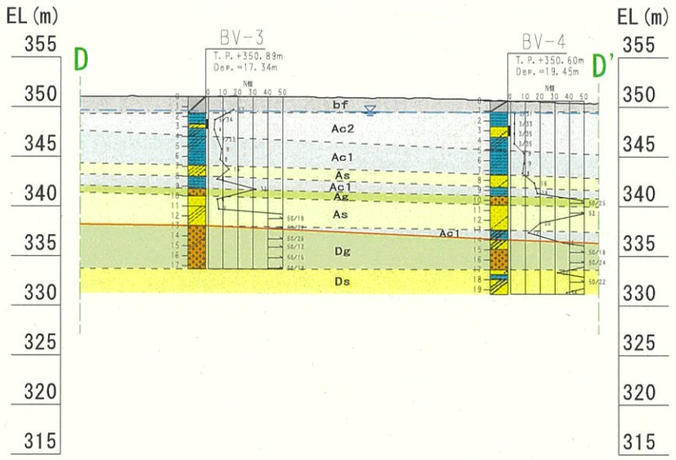
令和7年度	県営住宅駒沢新町第2団地 一部跡地の地盤調査業務		
番号	2／3	推定地質断面図 （A～C測線）	縮尺 A1 1:300 A3 1:600
駒沢新町第2団地一部跡地 長野市篠間			
設計会社			
測量会社			
調査会社	綜合地質コンサルタント(株)		
長野県健康福祉部障がい者支援課			

図4.1.2　推定地質断面図
（D～E測線）

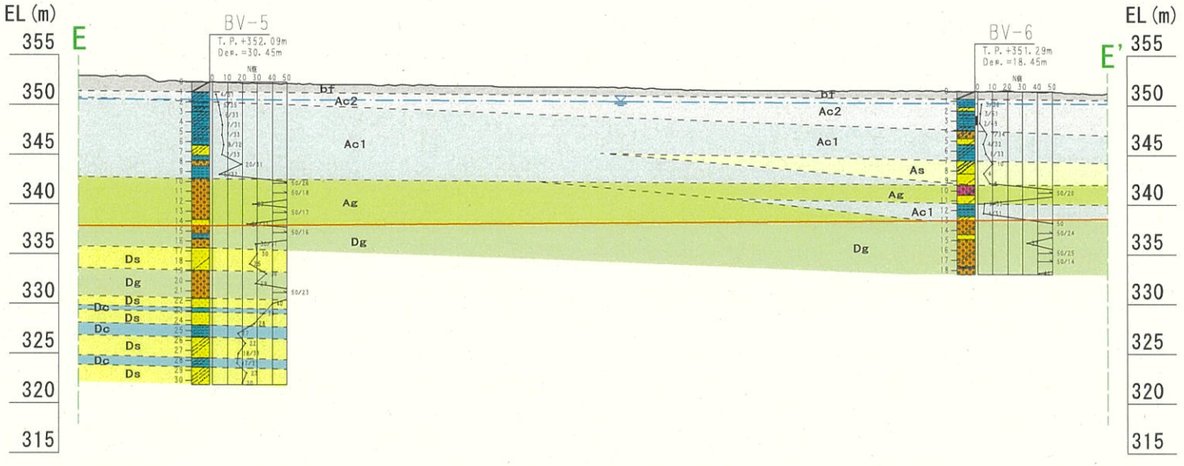
推定地質断面図

S=1:300　（A1版）
S=1:600　（A3版）

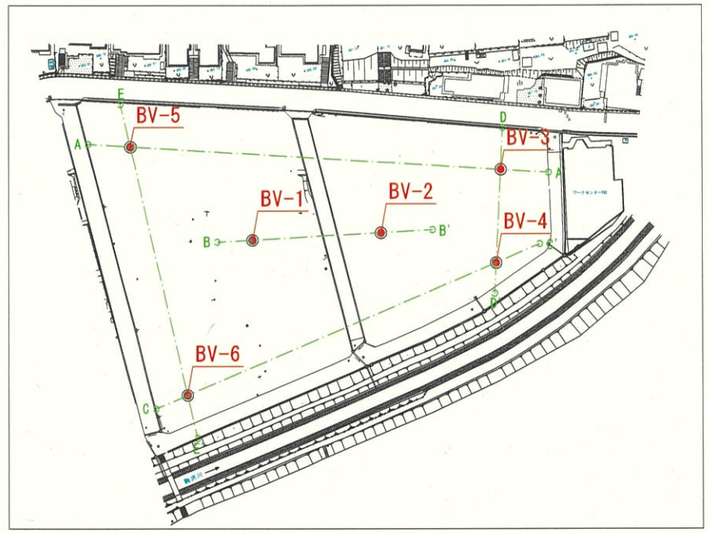
BV-3～BV-4断面（D測線）



BV-5～BV-6断面（E測線）



調査位置概要図



地層区分凡例

時代		地層区分	記号	土質	設計N値	記事
新生代第四紀	完新世	盛土層	bf	粘土質礫(砕石含む)	[14]	駒沢新町第2団地建設および現駐車場造成に伴う盛土や埋め戻し土。 地表から1m前後の厚さで分布する。土質は砕石を含む粘土質礫を 主体に構成される。礫径4cm前後の砕石を60%前後含んでおり、礫が密に 分布する。基質は概ね砂質シルトからなる。
		沖積粘性土2層	Ac2	シルト混じり砂・シルト質砂 砂混じりシルト・シルト・砂質シルト シルト質粘土・粘土質シルト	2	盛土層直下に分布する厚さ3～4mの軟弱な粘性土。土質は場所や深度によって 異なり不均質ではあるが、シルト質粘土や粘土質シルト等の粘性土を主体に 構成される。標準貫入試験では、一部でモンケン自沈が確認された。 硬さの状態は「非常に柔らかい」～「軟らかい」である。
		沖積粘性土層	Ac1	シルト質砂・シルト・砂質シルト 礫混じり砂質シルト・砂混じりシルト シルト混じり砂礫・粘土質シルト・シルト質粘土	6	Ac2層の下位に厚さ6m前後で厚く堆積する粘性土を本層とする。土質は砂礫 や砂質土を薄く挟んだり、場所や深度によって異なり不均質ではあるが、全体 としては、砂質シルトや礫混じり砂質シルトを主体に構成される。また、場所に よってはAs1層と互層状をなしている。硬さの状態は「中位」である。
		沖積砂質土層	As	砂・礫混じりシルト質砂・礫質砂 シルト混じり砂・シルト質砂	7	Ac1層中またはAc1層の下位に分布する砂質土を本層とする。土質は場所や 深度によってやや異なるが、全体としてはシルト混じり砂やシルト質砂を主体に 構成される。砂は主に中砂～粗砂からなる。締まりの状態は「緩い」である。
		沖積砂礫層	Ag	砂・シルト混じり砂・シルト質砂 砂礫・玉石混じり砂礫	27	調査地の西側（BV3,4を除く）において、基盤の直上に厚さ4m程度で堆積する 旧河床砂礫。土質は、場所や深度によって砂質土を挟むが、全体としては砂 礫を主体に構成される。礫は礫径3cm前後の亜円礫が主体をなし、最大礫径 はコア長13cm（推定礫径約40cm）である。締まりの状態は「中位」である。
	更新世	洪積砂礫層	Dg	砂・シルト混じり砂・礫質砂・砂質シルト 砂礫・シルト混じり砂礫	44	調査地全体で確認された、旧河床砂礫。BV-3,6では連続的に確認されたが、 他の調査孔ではDs1層を挟む。礫径はバラツキが大きく、1～6cmの亜円礫が 主体をなし、最大礫形は8cm程度である。BV1,5,6の掘進度は比較的良く、 BV2,3,4の掘進度は悪い。締まりの状態は「密な」状態である。
		洪積砂質土層	Ds	砂・シルト混じり砂・シルト質砂 礫混じり砂・礫質砂	25	Dg1層中またはDg1層の下位でDs1層と互層状をなす砂質土を本層とする。 層厚は1～2mであり、連続性は乏しい。土質は場所や深度によってやや 異なるが、全体としては砂やシルト混じり砂を主体に構成される。 砂は主に細砂からなる。締まりの状態は「中位」である。
		洪積粘性土層	Dc	砂質シルト・砂混じり粘土質シルト 粘土質シルト・シルト質粘土	14	BV-1,5の最深部で確認された粘性土を本層とする。Ds1層と互層状をなす。 層厚は2.5～3mである。土質は場所や深度によって異なり不均質ではあるが、 全体としては、粘土質シルトやシルト質粘土を主体に構成される。 硬さの状態は「硬い」である。

凡例

- 地層境界
- 支持地盤
- 地下水位

令和7年度	県営住宅駒沢新町第2団地 一部跡地の地盤調査業務		
番号	3／3	推定地質断面図 （D～E測線）	縮尺 A1 1:300 A3 1:600
駒沢新町第2団地一部跡地 長野市徳間			
設計会社			
測量会社			
調査会社	綜合地質コンサルタント(株)		
長野県健康福祉部障がい者支援課			